

# 遼代出土誌文小考

福井 敏

## 1 はじめに

中国において、それまで知られていない誌文類が出土、もしくは発見されたときにまず注目されるのは作者と顕彰対象である。すなわち、「誰が」「何のために」文を造ったのかを知ることが、その誌文の持つ意味を決定づけるからである。

しかしながら、ここで新出の誌文が本物ではない可能性について注意しなければならない。仮に本物でないとすれば、その理由は様々あると考えられるが、もし偽物を造るということが意図的におこなわれた場合、真偽の確認には困難を生じることが予測される。

近年、河南省登封市の法王寺で発見された円仁の作とされる「釈迦舍利藏誌」は、字体などの面から見れば唐代後期のものとみられるものの、ややサイズの小振りな石板がもう一枚出てきたことから、後年の作ではないかとの疑惑が浮上してきた。この問題について、月刊『書道界』では誌文中の「地宮」「聖物」という言葉についてこれらの語が唐以前には仏典中に存在しないことを取り上げ、「釈迦舍利藏誌」が円仁のものではないとする論考が発表されている<sup>1</sup>。

もし、誌文中に使用される語がその制作時期を決定づける根拠となるのであれば、誌文そのものの構成が時代により違えば、その制作時期を推定する一助となるに違いない。

となれば、造られた時代による誌文の構成の相違点を見ておくことは今後の出土誌文の研究に役立つはずである。

上記のことに鑑み、本稿では多くが遺されている唐代の墓誌文との比較により、遼代の出土墓誌文の構成面における特色の一端を明らかにしていきたい。

## 2 唐代及び遼代の碑誌文に関する先行研究<sup>2</sup>

墓誌文については、古くは宋代の『文苑英華』が卷九三五から卷九六九において二二三本の文を収めるなど、個人の文集や地方志を元に集めるといった手法が伝統的に用いられてきた。また、近年石刻文の発見が増加するにつれ、これらを収集・利用した研究もまた数を増していった。このような形で誌文類を収集するものとして、唐代に関しては、呉鋼の『全唐文補遺』や周紹良・趙超『唐代墓誌彙編』・同『續編』があり、遼代の出土史料を多く収録するものとして、陳述の編んだ『全遼文』がある。この書は1953年に刊行された『遼文匯』と、同書刊行後の30年近くの間新たに発見された史料を合わせて一書としたものであり、遼代の歴史や文学を研究するための基礎史料となるべく編纂されたものである。

さらに誌文類の収集にとどまらず内容の解釈にまで踏み込んだものとして、向南の手による『遼代石刻文編』、『遼代石刻文編続編』や王晶辰『遼寧碑誌』及び蓋之庸『内蒙古遼代石刻文研究』があげられる。これらの書には、出土石刻の写真が掲載されているものもあり、釈文との対照が可能となっている。その上、誌文に登場する人物・地名や歴史的事実に関しても注釈が施されている。

日本においては、中田勇次郎編『中国墓誌精華』をはじめとする、さまざまな研究成果が公刊されている。

なお、墓誌文は死者の経歴等を記して後世に伝える事を目的とし、死者の顕彰を目的とする墓碑文とは性格を異にするため、同列に論じることはできないが、本稿においては書式の違いを検討するためにあえて比較・対照した。また本稿においては、墓誌文の冒頭に述べられる被葬者の経歴等と直接の関わりを持たない文を、撰者の思いを述べることから「敘文」と称し、墓碑文における「序」と区別する。

ともあれ、これまでの先行研究の多くは、歴史的・考古学的な方面からのアプローチがなされており、後述するように、遼代出土墓誌文の構成面において、碑文に類する記述が現れはじめることに関する指摘は、管見の及ぶところにおいては見ることはできなかった。

というのも、このような新出の出土誌文に関する文学方面からのアプローチがほとんど存在しないからだと考えられる。しかしながら、出土誌文に記載さ

れる語はその当時、今回の場合なら遼代に、まさしく使われていた言葉であり、これらの誌文に引用されている文言は文人がどのような書に接し、影響を受けていたのかを示すものといえよう。このことは遼代文学の実態を知る上で、出土誌文の研究が有益であると同時に、論者のような唐代文学を研究する立場にある者にとっても、遼代において唐代の文学作品の影響がどの程度までみられるのかを知る上で非常に興味深い資料であるといえよう。ただし、現時点において二〇〇幅近い分量を有する遼代出土誌文をさまざまな面から一度に研究するのは不可能に近い。

そこで、本稿においては遼代出土墓誌文の構成要素のうち「紋文」の存在を中心に見ていくこととし、銘などの韻文に関する事柄や、使用されている語に関する詳細な研究については稿を改めて書くこととしたい。

### 3 唐代墓誌文の特徴

まずは唐代誌文の構成上の特徴を知るため、韓愈の「太子校書李元寶墓誌銘」をみる。中唐の文人・韓愈（七六八—八二四）は唐代を代表する文章家であり、後世の文人たちに範とされるなど、大きな影響を与えている点からここで取り上げた。なお、本稿においてはこれ以降の引用は必要部分だけにとどめることとする。

李観、字は元賓、其の先は隴西の人なり。始め江の東より来たる。年二十四にして進士に擧げられ、三年して上第に登る。又た博學宏詞に擧げられて太子校書となるを得。又た一年して京師に客死す。

既にして之を斂むるの三日、其の友人博陵の崔弘禮、地を賣い以て之れを國の東門の外七里に塋る。郷は慶義郷と曰い、原は嵩原と曰う。昌黎韓愈は其の友人なり。石に書し以て之に誌す。其の銘に曰く。（銘略）<sup>3</sup>

説明の都合上、本文を二段に分けておく。

この誌文は韓愈の友人であった、李観という人物の死に際して書かれたものである。前段では被葬者である李観の生涯（経歴）が描かれている。それに対して、後段は死後の墓地や誌文制作の動機が記されている。この誌文には言及がないが、後段には亡くなった者の子孫について、その官職などを書き残す場合

も多い。『文苑英華』には収録されていないが、同じ韓愈の誌文である「故中散大夫河南尹杜君墓志銘」には、杜兼という人物が元和四年（八〇九）十一月二十二日に六十歳で亡くなったことを記した後で次のように続けている。

夫人は常山郡君の張氏、彭州刺史贈禮部侍郎饒の女なり。子は男三人を生む、柔立は天長主簿と爲り、詞立は壽州參軍と爲り、誼立は順宗の挽郎と爲る。女一人あり。<sup>4</sup>

これら「被葬者の経歴」、「子孫の官職」に加えて最後に韻文である「銘」を付する。これが唐代の誌文の基本形であるといえよう。

しかし当然のことではあるが、全ての誌文がこれと同じ構成を取るわけではない。天宝末の進士である常袞の「華州刺史李公墓誌銘」は以下のような文から始まっている。

天は將星を垂らし三象を著在す。國に武柄有りて四方を寧す。鉞を授けるは其れ難く戈を止むるは斯れ重し。封豕を定めて蛇の孽に長じ、攀龍を致して鳳の功に附く。朱戟門に在りて黄金横帶す。命ぜられて師旅を掌り化して公侯と成る。時に有りて公其の人に竟るなり。（後略）<sup>5</sup>

この後、「公、諱は懷讓、字は某、蓋し漢の將軍陵の後なり」と被葬者の経歴が続くが、今提示したこの部分は被葬者である李公とはまったく関係のない話である。後述の碑文であればまだしも、このような例は少なくとも唐代の誌文においては一般的ではない。『文苑英華』は卷九三五から卷九六九に二二三本の誌文を収めるが、上記のような形式の誌文はわずか一五本にすぎず、またそのうちの七本が常袞の手によるものであれば、これらの形式で書かれた誌文が特殊な例であることは窺い知れよう。となれば、唐代においては前述のごとく、「被葬者の生涯」、「子孫の官職」、「制作の動機」、「銘」により構成されるのが一般的な誌文の形式といえよう。

#### 4 遼代の墓誌文

次いで遼代の出土誌文を見ていくこととする。今回参照したのは『遼代石刻

文編』・『遼代石刻文続編』・『遼寧碑誌』・『内蒙古遼代石刻文研』の四冊に収められる誌文である。

まずは穆宗朝の誌文である「劉存規墓誌」を見る。

存規、字は守範、河間王二十四代の孫なり。大遼の間屢ば奇功を著し、積慶宮都提轄使、金紫榮祿大夫、校尉司空、兼御史大夫、上柱國を拝す。應曆五年卒す。

密雲縣嘉禾郷に葬らる。子五あり。長の繼階は攝順義軍節度衙推、次の繼英は永康府押衙、次の繼昭は山河都指揮使、次の繼倫は定遠軍節度衙推なり。<sup>6</sup>

應曆五（九五五）年の元号を持つこの誌文を見る限りにおいては、「被葬者の経歴」、「子孫の官職」という構成要素は唐代のそれとあまり変わらない。「銘」がないのは単にこの誌文にないだけのことであって、他の誌文には附するものが多い。

しかし、その約四十年後にあたる聖宗期の統和十一（九九三）年に邢抱朴によって書かれた「韓匡嗣妻秦國太夫人墓誌」の冒頭部を見てみると、少し事情が異なってくる。

易に曰く、乾道は男を成し、坤道は女を成すと。故に剛上となり柔下となり、二儀の位正たり。陰は偶にして陽は奇なるは四時の化行なり。其れ章戚の里を含み、猷□の門を作すこと有り。生まれながらにして母儀を備え、公族是において行を蕃す、歿して婦范を留め、邦人之れが爲に傷を盡くす。萃哀一時に榮え、流聲百世に光る者は、則ち我が故秦國太夫人其の人なり。<sup>7</sup>  
（後略）

引用部のように、被葬者である秦國太夫人（韓匡嗣の妻）の徳を褒めるために、一見何の関係もない典拠（『易経』の引用<sup>8</sup>によって陰陽について述べる点など）からはじめるというのは、前述の常袞の例を除けば、誌文にはない構成要素である。このような構成をとる誌文を『遼代石刻文編』・『遼代石刻文続編』・『遼寧碑誌』・『内蒙古遼代石刻文研究』より探してみると、（傍点筆者。以下同じ）

・夫天□地載之中。四序巡還之内。皆稟純氣。方備形儀。禍福死生。不能逃也。□□□從貴盛長自朱門。閱禮敦詩而多勇智。如斯英彥惟司徒。(陳萬墓誌)

・夫高門襲慶。列爵疏封。雄飛資廟食之文。鹿鳴叶朝讌之雅。若乃眞先王之冑緒。大建侯勳庸。繼世聯芳。載書備簡(韓瑜墓誌)

・大凡德之厚者必賢其胤。功之豐者必世其爵。漢梁冀一門三后。晉荀卿六葉九公。此然知榮未可爲貴。向如帝王外戚之中。歷史以縷陳之。迄今以鏡別之。較其德論其公。叙其職議其貴。獨擅其二美者。我蕭公之宗胤也。(蕭德恭墓誌)

など多数存在する。

特に傍点を付した部分(「斯くの如き英彥は惟れ司徒なり」「獨り其の二美を擅ま<sup>ほしま</sup>にする者は我が蕭公の宗胤なり」)は、「韓匡嗣妻秦國太夫人墓誌」の場合と同様、次の「被葬者の経歴」へと直接つながる形になっており、このような書き方が一つの定型として確立されていたことをうかがわせるものである。

実は、上にあげた誌文におけるこういった構成は遼代になってから急に現れたという訳ではない。次節にみられるように碑文においては少なくとも中唐期にはこういった手法が取り入れられていたのである。

## 5 唐代碑文の構成

碑文は、「顕彰」という働きにおいて、亡くなった者の功績をたたえる誌文に近いものがある。しかし、誌文が墓の近くに埋められて発掘されるまでは表にあらわれることが少ないのに対し、碑文は始めから地表にあって人々に見られるものであり、文を撰した者にしても自らの名が明らかとなるため、自身の得た古典籍の知識をふんだんに用いた文辞を用いて記している。中唐の文人・柳宗元(七七三―八一九)の「南嶽大明寺律和尚碑並序」は次のような文から始まる。

儒は禮を以て仁義を立て、之れを無くせば則ち壞る。佛は律を以て定慧を持ち、之れを去れば則ち喪う。是の故に禮の仁義を離るる者は、儒と言うに與かるべけんや。律の定慧を異にする者は、佛と言うに與かるべけんや。是の道に達する者は、惟れ大明師なり。

師姓は歐陽氏、號は惠聞と曰う。唐の開元二十一年始めて生る。天寶十一載始めて浮圖と爲る。大歴十一年始めて壇に登りて大律師と爲る。貞元十三年十一月十一日卒す。

元和九年正月、其の弟子懷信、道嵩、尼無染等、高道の僧靈嶼に命じて行狀を爲さしめ、其の行事を列せしめ、之ここに茲の碑を刊することを願う。

(後略)<sup>9</sup>

第一段は、儒教における礼と仏教における律の重要性を並列して、そこから顕彰対象である律和尚の存在を導き出すが、これはさきほどみた遼代の墓誌文の特徴と合致する。

第二段は、律和尚・惠聞の経歴を述べた部分である。これは一般的な誌文にも見られるもので、顕彰対象（被葬者）が存在する以上、必要不可欠なものである。

第三段は、建碑に至る道程を記している。この碑文の顕彰対象は、出家者である律和尚・惠聞であるため、ここではかれの子孫は登場しない。その代わりに弟子の何人かの名前が挙がっている。彼らが律和尚の教えを継ぐ者であり、師承関係にあるのであれば、一般の誌文における子孫に相当すると言うことができる。

この後、行状を読んだ柳宗元の言、そして銘が続くが、銘の中身がそれまでの序文と一致するのも碑文の構成においては重要な点である。参考までに、この碑文の銘の冒頭部を挙げておく。

儒は禮を以て行われ、覺は律を以て興る。眞源を歸するを一にし、大小の乘無し。大いに之れ律を明らかにし、定を是とし慧を是とす。丕いに經教を窮め、法の爲に出世す。<sup>10</sup>

儒における礼と仏における律の並列というのは、第一段で述べられている内容と全く一致していることがわかるだろう。遼代の誌文が唐代の碑文の影響を受けて、そのスタイルを取り入れたのだとすれば、この点がきちんと反映されているのが重要となってくる。

これを検証するために、遼代の墓誌文についてその構成をはじめとする特徴を以下の一覧表にまとめた。

|    | 墓誌名         | 製作年              | 西曆             | 撰者     | 構成       |          |          |         | 収録       |           |          | 備考 |                |
|----|-------------|------------------|----------------|--------|----------|----------|----------|---------|----------|-----------|----------|----|----------------|
|    |             |                  |                |        | 敘文<br>記載 | 經歷<br>記載 | 家族<br>記載 | 銘<br>記載 | 石刻<br>文編 | 石刻<br>文統編 | 遼寧<br>碑志 |    | 內蒙古遼代<br>石刻文研究 |
| 1  | 耶律羽之墓誌      | 會同五年<br>(四年)     | 942<br>(941)   | 邢明遠    | ○        | ○        | ○        | ○       |          | ○         |          | ○  |                |
| 2  | 劉存規墓誌       | 應曆五年             | 955            |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 3  | 陳萬墓誌        | 應曆五年             | 955            | 李筠     | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 4  | 趙公夫人種氏墓誌    | 應曆八年             | 958            | 劉京     |          | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 5  | 駙馬贈衛國王沙姑墓誌  | 應曆九年             | 959            |        | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          | ○  |                |
| 6  | 王仲福墓誌       | 應曆十七年            | 967            |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 7  | 張建立墓誌       | 保寧元年             | 969            |        |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 8  | 王守謙墓誌       | 保寧元年             | 969            |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 9  | 劉承嗣墓誌       | 保寧二年             | 970            | 憑兒     |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 10 | 耿崇美墓誌       | 保寧二年             | 970            | 王暁     | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 11 | 李內貞墓誌       | 保寧十年             | 978            |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 12 | 吳景詢墓誌       | 保寧間              | 969-979        | ?      |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 13 | 王裕墓誌        | 乾亨三年<br>(二年)     | 981<br>(980)   | 董□     |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 14 | 張正嵩墓誌       | 乾亨三年             | 981            | 趙衡     | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 15 | 劉繼文墓誌       | 乾亨三年             | 981            | 沙門文秀   | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 16 | 陳公之銘        | 乾亨三年             | 981            |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 17 | 許從贊暨妻康氏墓誌   | 乾亨四年             | 982            |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 18 | 王瓚墓誌        | 統和三年             | 985            | 董□     |          |          | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 19 | 韓匡嗣墓誌       | 統和三年<br>(乾亨四年)   | 985<br>(986)   | 馬得臣    | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           | ○        | ○  |                |
| 20 | 韓德昌墓誌       | 統和三年             | 985            | 李玄     |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 21 | 耶律延寧墓誌      | 統和四年             | 986            |        |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 22 | 韓瑜墓誌        | 統和九年             | 991            | 郝雲     | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 23 | 韓匡嗣妻秦國太夫人墓誌 | 統和十一年            | 993            | 邢抱朴    | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           | ○        | ○  |                |
| 24 | 姜承義墓誌       | 統和十二年            | 994            |        |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          |    |                |
| 25 | 韓佚墓誌        | 統和十三年            | 995            | 裴玄感    | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 26 | 韓德威墓誌       | 統和十五年<br>(十四年)   | 997<br>(996)   | 鄭從范    | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           | ○        | ○  |                |
| 27 | 劉宇傑墓誌       | 統和十八年            | 1000           | 王用極    |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 28 | 高嵩墓誌        | 統和十八年            | 1000           | 賈瑜     | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 29 | 平州趙府君墓誌     | 統和二十年            | 1002           |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 30 | 王悅墓誌        | 統和二十三年           | 1005           | 沙門志詮   | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 31 | 徒都太尉夫人墓誌    | 統和二十三年           | 1005           |        |          |          | ○        | ○       | ○<br>(?) |           | ○        |    |                |
| 32 | 王鄰墓誌        | 統和二十四年           | 1006           |        | ○        | ○        | ○<br>(?) | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 33 | □奉殷墓誌       | 統和二十五年           | 1007           |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 34 | 常遠化墓誌       | 統和二十六年           | 1008           |        |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 35 | 王說墓誌        | 統和二十六年           | 1008           | 李度     | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 36 | 耶律元寧墓誌      | 統和二十六年           | 1008           | 楊又玄    |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        | ○  |                |
| 37 | 耶律加乙里妃墓誌    | 統和二十七年           | 1009           |        |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          |    |                |
| 38 | 蕭氏夫人墓誌      | 統和二十七年           | 1009           |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        | ○  |                |
| 39 | 韓佚妻王氏墓誌     | 統和二十九年           | 1011           | 王行己(?) |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          |    |                |
| 40 | 耶律隆祐墓誌      | 統和二十九年<br>(二十八年) | 1011<br>(1010) | 李可舉    |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        | ○  |                |
| 41 | 耿延毅妻耶律氏墓誌   | 統和三十年            | 1012           | 史克忠    | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 42 | 宣以回紇國國信使墓誌  | 統和間              | 983-1012       |        |          |          | ○        | ○       | ○<br>(?) |           |          | ○  |                |
| 43 | 宋公妻張氏墓誌     | 開泰四年             | 1015           | 成昭文    |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 44 | 耶律元寧墓誌      | 開泰四年<br>(統和三十年)  | 1015<br>(1012) |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        | ○  |                |
| 45 | 韓相墓誌        | 開泰六年             | 1017           | 趙用     | ○        | ○        | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |
| 46 | 陳國公主墓誌      | 開泰七年             | 1018           | 馬貽謀    |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 47 | 耿延毅墓誌       | 開泰九年             | 1020           |        |          |          | ○        | ○       | ○        | ○         |          | ○  |                |
| 48 | 耶律霞茲墓誌      | 太平元年             | 1021           |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           | ○        |    |                |
| 49 | 程延超墓誌       | 太平二年             | 1022           |        |          |          | ○        | ○       | ○        |           |          |    |                |

|     |                |                |                |        |   |          |          |          |   |   |   |   |   |
|-----|----------------|----------------|----------------|--------|---|----------|----------|----------|---|---|---|---|---|
| 50  | 韓紹婦墓誌          | 太平二年           | 1022           |        |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ | ○ |   |   |
| 51  | 馮從順墓誌          | 太平三年           | 1023           | 宋復圭    |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 52  | 耶律道清墓誌         | 太平三年           | 1023           |        |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   | ○ |   |
| 53  | 張琪墓誌           | 太平四年           | 1024           | 楊信     |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 54  | 宋匡世墓誌          | 太平六年           | 1026           | 王景運    | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 55  | 耿知新墓誌          | 太平七年           | 1027           | 王知微    |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 56  | 耶律遂正墓誌         | 太平七年           | 1027           |        |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   | ○ |
| 57  | 李知順墓誌          | 太平八年           | 1028           | 向載言    | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   | ○ |
| 58  | 蕭僮墓誌           | 太平九年           | 1029           | 趙遠     |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 59  | 蕭琳墓誌           | 太平十年<br>(重熙二年) | 1030<br>(1033) | 王成     |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   | ○ |
| 60  | 聖宗皇帝哀册         | 太平十一年          | 1031           | 張儉     |   | ○        |          | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 61  | 張哥墓誌           | 重熙四年           | 1035           |        |   | ○<br>(?) | ○        |          | ○ |   |   |   |   |
| 62  | 張嗣甫墓誌          | 重熙五年           | 1036           | 張嗣宗    | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 63  | 韓恂墓誌           | 重熙六年           | 1037           | 李萬     |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 64  | 耶律遂忠墓誌         | 重熙六年           | 1037           | ?      |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 65  | 耶律元妻晉國夫人蕭氏墓誌   | 重熙七年           | 1038           | 張濟     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 66  | 張思忠墓誌          | 重熙八年           | 1039           | 柴(榮)德基 | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 67  | 趙爲幹墓誌          | 重熙八年           | 1039           | 郝曼     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 68  | 呂思支墓誌          | 重熙九年           | 1040           |        |   | ○        | ○        |          |   | ○ |   |   | ○ |
| 69  | 北天王墓誌(北大王万辛墓誌) | 重熙十年           | 1041           |        |   | ○        | ○        | ○        | ○ | ○ |   |   | ○ |
| 70  | 蕭相公墓誌          | 重熙十三年前         | -1044          |        |   | ○<br>(?) | ○<br>(?) | ○<br>(?) |   |   |   | ○ |   |
| 71  | 李繼成暨妻馬氏墓誌      | 重熙十三年          | 1044           |        |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   | ○ |   |   |
| 72  | 王澤妻李氏墓誌        | 重熙十四年          | 1045           | 王澤     |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 73  | 秦國太妃墓誌         | 重熙十四年          | 1045           | 楊信     | ○ | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 74  | 劉日泳墓誌          | 重熙十五年          | 1046           | 班班侯湘   | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 75  | 秦晉國大長公主墓誌      | 重熙十五年          | 1046           | 楊信     |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   | ○ |
| 76  | 王澤墓誌           | 重熙二十二年         | 1053           | 王綱     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 77  | 張儉墓誌           | 重熙二十二年         | 1053           | 楊信     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 78  | 耶律宗教墓誌         | 重熙二十二年         | 1053           | 張嗣復    |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 79  | 丁求謹墓誌          | 清寧三年           | 1057           |        |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 80  | 聖宗欽哀皇后哀册       | 清寧四年           | 1058           |        |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 81  | 蕭旻墓誌           | 清寧四年           | 1058           |        |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   | ○ |   |   |
| 82  | 耶律庶幾墓誌         | 清寧五年           | 1059           |        |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 83  | 趙匡禹墓誌          | 清寧六年           | 1060           | 趙濟     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 84  | 耶律宗政墓誌         | 清寧八年           | 1062           | 王寯     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 85  | 張續墓誌           | 清寧九年           | 1063           |        |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 86  | 聖宗淑儀贈寂善大師墓誌    | 清寧九年           | 1063           | 王觀     |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   | ○ |   | ○ |
| 87  | 耶律宗允墓誌         | 咸雍元年           | 1065           | 劉詵     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 88  | 蕭知行墓誌          | 咸雍四年           | 1068           | 張□     |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 89  | 韓資道墓誌          | 咸雍五年           | 1069           | 李炎     |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 90  | 董匡信及妻王氏墓誌      | 咸雍五年           | 1069           |        |   |          |          |          |   |   |   |   |   |
| 91  | 秦晉國妃墓誌         | 咸雍五年           | 1069           | 陳覺     | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 92  | 蕭閣妻耶律骨迷已墓誌     | 咸雍五年           | 1069           | 張少微    | ○ | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 93  | 陳凱妻曹氏墓誌(甲)     | 咸雍六年           | 1070           | 杜公謂    |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 94  | 蕭福延墓誌          | 咸雍六年           | 1070           | 杜公謂    |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 95  | 蕭閣墓誌           | 咸雍七年           | 1071           | 趙群     |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 96  | 康文成墓誌          | 咸雍七年           | 1071           |        |   | ○        | ○        |          |   | ○ |   |   |   |
| 97  | 弘農楊公墓誌         | 咸雍七年           | 1071           |        |   | ○        | ○        |          |   | ○ |   |   |   |
| 98  | 耶律仁先墓誌         | 咸雍八年           | 1072           | 趙孝嚴    | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   | ○ |   |
| 99  | 耶律宗福墓誌         | 咸雍八年           | 1072           | 樂□     | ○ | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 100 | 蕭闡墓誌           | 咸雍八年           | 1072           | 董庫     |   | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   |   |
| 101 | 耶律宗愿墓誌         | 咸雍八年           | 1072           | 趙孝嚴    | ○ | ○        | ○        | ○        |   | ○ |   |   | ○ |
| 102 | 蕭德恭墓誌          | 咸雍九年           | 1073           | 石介     | ○ | ○        | ○        |          |   | ○ |   |   |   |
| 103 | 蕭德温墓誌          | 大康元年           | 1075           | 張臣言    |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 104 | 興宗仁懿皇后哀册       | 大康二年           | 1076           |        |   | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   |   |
| 105 | 王敦裕墓誌          | 大康二年           | 1076           | 温如?    | ○ | ○        | ○        | ○        | ○ |   |   |   | ○ |



|     |            |      |           |        |   |   |   |   |   |   |   |   |  |
|-----|------------|------|-----------|--------|---|---|---|---|---|---|---|---|--|
| 165 | 丁文道墓誌      | 天慶三年 | 1113      | 韓昉     |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |  |
| 166 | 王師儒墓誌      | 天慶四年 | 1114      | 南卦     |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |  |
| 167 | 史洵直墓誌      | 天慶四年 | 1114      |        | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |  |
| 168 | 耶律習涅墓誌     | 天慶四年 | 1114      |        |   | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   | ○ |  |
| 169 | 劉慈墓誌       | 天慶四年 | 1114      |        |   | ○ | ○ |   |   | ○ |   |   |  |
| 170 | 張世卿墓誌      | 天慶六年 | 1116      | 鄭皓     | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |  |
| 171 | 姚璿墓誌       | 天慶七年 | 1117      |        |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |  |
| 172 | 張世古墓誌      | 天慶七年 | 1117      |        | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |   |  |
| 173 | 張恭誘墓誌      | 天慶七年 | 1117      |        | ○ | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |   |  |
| 174 | 孟初墓誌       | 天慶七年 | 1117      | 虞仲文(?) |   | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |   |  |
| 175 | 鮮演大師墓誌     | 天慶八年 | 1118      |        | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |   |   |  |
| 176 | 劉承遂墓誌      | 天慶九年 | 1119      |        |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |  |
| 177 | 杜念墓誌       | 天慶十年 | 1120      | 鄭□□    |   | ○ | ○ | ○ |   | ○ |   |   |  |
| 178 | 鮮于氏墓誌      | 保大元年 | 1121      | 馬子昇    |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |  |
| 179 | 劉暉墓誌       | 保大元年 | 1121      |        |   | ○ | ○ |   |   | ○ |   |   |  |
| 180 | 王安裔墓誌      | 保大四年 | 1124      |        |   | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |   |  |
| 181 | 耶律祺墓誌      | 天祚帝間 | 1101-1125 |        |   | ○ | ○ |   |   | ○ |   |   |  |
| 182 | 張衍墓誌       | 不明   |           |        |   | ○ | ○ |   | ○ |   |   |   |  |
| 183 | 耿公妻張氏墓誌(殘) | 不明   |           |        |   | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |   |   |  |

上記の表は現在までに発見された墓誌文・哀冊についてその構成を整理したものである。この表から得られる知見としては以下のようなものがある。

I 遼代墓誌文においては「敘文」を有するものは全体を通して一定の割合で存在している。

II 遼代墓誌文において銘が付されないものは何点か存在するが、「敘文」が存在する墓誌文には一篇を除いて銘が必ず付されている。

まず I について詳細な数字を上げると次のようになる。「(「敘文」のあるもの/全体数)

太宗朝 (1/1)・穆宗朝 (2/5)・景宗朝 (3/11)・聖宗朝 (15/43)・興宗朝 (10/18)・道宗朝 (16/60)・天祚帝朝 (9/43)

最も割合の少ない天祚帝朝で約21%、興宗朝では50%を越える。第三節で述べたように、『文苑英華』において「敘文」を有するものが、わずか7%弱(15/223)であることを考えれば、この点は遼代誌文の大きな特徴の一つといえることができる。

II については、天祚帝朝の「鮮演大師墓誌」(天慶八年)がその唯一の例外となるが、残る五五幅は「敘文」、「被葬者の経歴」、「子孫の官職」、「銘」をすべて備えている。

この点について、遼代の墓誌文が唐代碑文から何らかの影響を受けていると仮定すると、うまく説明がつくのではないだろうか。というのも本節で少し触れたように、碑文に銘は欠くべからざるものであり、遼代墓誌文中で誌文と銘とがセットになっているのだとすれば、そこに唐代碑文からの影響を考慮に入れるのは不自然ではないだろう。ただし、この点については考察の余地があり、本研究における今後の課題の一つであるといえよう。

更にもう一つ、被葬者が夫人である時に「敘文」に『易経』が引用されている場合がある。一例として第四節に「韓匡嗣妻秦國太夫人墓誌」の冒頭部を挙げたが、そもそも『易経』における「陽」と「陰」は上下関係を形成するものではなく<sup>11</sup>、契丹族における「韓氏一族」の位置づけも加味して考えると誌文における「敘文」の持つ意味も明らかになるのだろうが、これに関してはまだ使用例が少ないため、もう少し検討を加えてから結論をだしたい。

## 6 小 結

ここまで論じてきたことをまとめると次のようになる。

誌文の構成は内容から見て幾つかに分けることが出来る。すなわち、「被葬者の経歴」、「子孫の官職」、「誌文執筆の動機」、「銘」等がそれである。特に遺された子について、その官職を詳細に記載するものは、親を顕彰することが誌文制作の依頼へとつながっている場合が多く、この3つは誌文の構成要素という意味においてはほぼ同じものとかんがえてよいかもしれない。

碑文の構成において誌文と異なる点として、「被葬者の経歴」の前に「敘文」とでも言うべき文が附されていることが挙げられる。また建碑者、つまり碑の制作に深い関わりを持つ人物や出資した人物について、文中に言及することが多い。

共通する点としては、「顕彰対象の経歴」や「銘」を備えるものがほとんどであることが挙げられる。

誌文も碑文もともに被葬者を弔うための文章であるが、制作の目的が異なるために、この二者には構成や内容に大きな違いが見られ、書き手もその点を意識して使い分けていたと考えられる。

というのも、碑文の場合は文と銘がそれぞれ対照できるものであり、いわば相互に補完関係をなすものということが出来るが、誌文の場合はあくまで被葬

者の経歴を語るのが主であり、銘は本文と対等な関係にあるとはいえないからである。

これを念頭に置いて遼代の出土墓誌を見てみると、誌文中に量の多少はあるものの、まず「敘文」を記すものが現れはじめる。この点からみれば「碑文」の特徴を「誌文」が取り入れたということになる。これがどのような理由によるのかは、現在のところまだよくわからない。書き手の意識の変化が影響している可能性もあるだろう。

ただし、銘の持つ意味という面から見た場合、遼代誌文の銘は碑文中におけるそれとは異なり、あくまでも被葬者の経歴に沿った形のものとなっているのではないだろうか。

この点については第5節に挙げた今後の課題とともにさらに研究をすすめていくべきものであるといえよう。

## 注

- 1 河内昭圓「『聖物』と『地宮』」(月刊『書道界』平成23年1月号)及び「再説『聖物』と『地宮』」(月刊『書道界』平成23年3月号)
- 2 以下に本論において引用する本の書誌を列挙する。
  - ・李昉等撰『文苑英華』(北京圖書館藏宋刊殘本及明刊本)(中華書局1966年)・吳鋼主編『全唐文補遺』(全九輯)(三秦出版社1995年—2007年)・周紹良編『唐代墓誌彙編』(上海古籍出版社1992年)・周紹良・趙超編『唐代墓誌彙編續編』(上海古籍出版社2001年)・陳述編『全遼文』(中華書局1982年)・陳述編『遼文匯』(中国科学院1953年)・向南『遼代石刻文編』(河北教育出版社1995年4月)・向南・張國慶・李宇峰輯注『遼代石刻文編續編』(遼寧人民出版社2010年1月)・王晶辰主編・王菊耳副主編・王明琦顧問『遼寧碑誌』(遼寧人民出版社2002年12月)・蓋之庸編著『內蒙古遼代石刻文研究』(內蒙古大學出版社2007年2月)・中田勇次郎編『中国墓誌精華』(中央公論社1975年)・韓愈『朱文公校昌黎先生文集』(四部叢刊初編)・柳宗元『增廣註釋音辯唐柳先生集』(四部叢刊初編)
- 3 李觀字元賓。其先隴西人也。始來自江之東。年二十四舉進士三年登上第。又舉博學宏詞得太子校書。又一年客死于京師。既歛之三日。其友人博陵崔弘禮。賣地以葬之于國東門之外七里。鄉曰慶義鄉原曰嵩原。昌黎韓愈其友人也。書石以誌之。其銘曰。(『文苑英華』卷九四六)

- 4 夫人常山郡君張氏。彭州刺史贈禮部侍郎莪之女。生子男三人。柔立爲天長主簿。詞立爲壽州參軍。誼立爲順宗挽郎。女一人。（『朱文公校昌黎先生文集』卷二六）
- 5 天垂將星著在三象。國有武柄寧於四方。授鉞其難止戈斯重。定封豕長蛇之孽。致攀龍附鳳之功。朱戟在門黃金橫帶。命掌師旅化成公侯。時有竟公其人也。（注3に同じ）
- 6 存規字守範。河間王二十四代孫。大遼開屢著奇功。拜積慶宮都提轄使。金紫榮祿大夫校尉司空兼御史大夫上柱國。應曆五年卒。葬密雲縣嘉禾鄉。子五。長繼階攝順義軍節度衙推。次繼英永康府押衙。次繼昭山河都指揮使。次繼倫定遠軍節度衙推。（『遼代石刻文編』）
- 7 易曰。乾道成男坤道成女。故剛上柔下二儀之位正焉。陰偶陽奇四時之化行矣。其有含章戚里作猷□門。生備母儀公族于是蕃衍。歿留婦范邦人爲之盡傷。萃哀榮于一時流聲光于百世者。則我故秦國太夫人其人也。（『遼代石刻文統編』）
- 8 『易』「繫辭傳」上に「乾道は男を成し、坤道は女を成す。乾は大始<sup>つかさ</sup>を知どり、坤は物を作成す。乾は易を以て知どり、坤は簡を以て能くす」（乾道成男。坤道成女。乾知大始。坤作成物。乾以易知。坤以簡能）とあるのを踏まえる。
- 9 儒以禮立仁義。無之則壞。佛以律持定慧。去之則喪。是故離禮於仁義者。不可與言儒。異律於定慧者。不可與言佛。達是道者。惟大明師。師姓歐陽氏。號曰惠聞。唐開元二十一年始生。天寶十一載始爲浮圖。大歷十一年始登壇爲大律師。貞元十三年十一月十一日卒。元和九年正月。其弟子懷信道嵩尼無染等。命高道僧靈嶼爲行狀。列其行事。願刊之茲碑。（『增廣註釋音辯唐柳先生集』卷七）
- 10 儒以禮行。覺以律興。一歸真源。無大小乘。大明之律。是定是慧。不窮經教。爲法出世。（同前）
- 11 「韓匡嗣妻秦國太夫人墓誌」の場合、銘は「猗なるかな夫人、婦道彰明たり。子孫大いに盛にして、將相兼ねて榮ゆ。生まれて餘慶あり、歿して令名あり。嗚呼。徳は是の如く、福は是の如し。千載の後、之れと與に京なるもの莫し。」（猗歟夫人。婦道彰明。子孫大盛。將相兼榮。生有餘慶。歿有令名。嗚呼。徳如是。福如是。千載之後。莫之與京）とある。ここでいう「婦道彰明」は墓誌文中の「坤道成女」を意識しているように見える。本来『易経』は「乾道」（=男）の比較概念として「坤道」（=女）をいう。この墓誌文においてはさらに「婦徳」を導き出すためにも『易経』を引用されていると考えられる。